

# 福祉生活病院常任委員会資料

(令和5年2月22日)

## 【件名】

- 小倉将信こども政策担当大臣の鳥取県視察について (子育て王国課) . . . 2

子育て・人財局

## 小倉將信こども政策担当大臣の鳥取県視察について

令和5年2月22日  
子育て王国課

子育て支援に関する地域の取組やニーズ等を把握し、今後のこども・子育て支援の取組に活かすため、小倉將信こども政策担当大臣が本県を訪問しましたので、概要を報告します。

1 期日 令和5年2月19日（日）

2 場所 わらべ館（鳥取市西町）

3 内容等

- わらべ館視察
- こども政策対話  
（こども政策の推進に向けた県内関係者との意見交換）

4 こども政策対話の結果概要

- 出席者 小倉 將信<sup>まきのぶ</sup>こども政策担当大臣  
渡辺由美子こども家庭庁設立準備室長  
知事、鳥取市長、湯梨浜町長、社会医療法人明和会医療福祉センター 渡辺理事長、  
鳥取県内で子育て中の方4名

○概要

### 【子育て中の方の発言】

- ・39歳で3人目を出産したが、ゆとりのある人員配置や定時で帰宅できる環境づくりなど、職場におけるワークライフバランスの充実によって子育てしながら仕事を続けられている。
- ・今年6月に第4子を出産予定であるが、短時間勤務や週休3日制度、育休から復帰する際の慣らし復帰制度など、選びやすい仕事のやり方が用意されていることから、好きな仕事を不安なく続けられている。
- ・夫婦ともに県外出身で夫の転勤で鳥取県に移住、周りに頼れる人もいない中、二人だけで子育てをしているが、精神的にも肉体的にも苦しくなった時に、自己負担なく利用できる産後ケア施設の母子ショートステイに救われた。産後ケア施設の充実（施設数増、利用期間の延長など）をお願いしたい。
- ・結婚して4年目になるが、3年間は子どもを授かれず、不妊治療を経験し、出産することができた。保育士の仕事をしてきたが、保育施設の人手不足の問題もあり休みを取りづらい状況もあり、退職せざるを得なかった。仕事と不妊治療の両立は難しく、今後、第2子も希望しているが、治療回数の制限や治療費等の経済的負担もあり、出産をあきらめないといけないかもしれない不安を感じている。

### 【小倉大臣の発言】

- ・県と市町村がこども政策に関してリーダーシップを発揮していただくとともに、自治体間が上手く連携した取組を進められており、子どもにやさしい鳥取県が実現できていることを強く感じた。
- ・各自治体が切磋琢磨し、地域の実情に照らしてサービスの充実を図っていくことが重要と感じている。
- ・子育て当事者の方からの意見では、育休制度や短時間勤務制度などを活用しながらの出産・育児と仕事の両立など、総理指示にもあった働き方改革に向けて今後の日本が目指すべき方向性を示していただいた。
- ・未就園児への支援の充実についても伴走型支援として、自治体とも連携して産後ケア施設の充実や保育施設等を地域の子育て拠点として充実させる取組を進めていきたい。
- ・保育士の処遇改善と配置基準の改善もさらに進めていきたい。
- ・不妊治療の保険適用も始めたところだが、金銭的な負担感だけではなく、肉体的・精神的な苦勞を伴うことを伺ったので、職場での理解促進に向けた取組を国としても進めていきたい。



こども政策対話出席者記念撮影の様子